

## 腹腔鏡下胆管切石術（経胆嚢管法）

四谷メディカルキューブ きずの小さな手術センター 梅澤昭子

**【はじめに】**胆嚢総胆管結石症に対する一次的腹腔鏡下手術は1度の手術で治療が完結し、良好な術後成績と短期の術後在院日数、早期の社会復帰が得られる。特に経胆嚢管法は切石が終了すれば胆嚢摘出術と同じ手技・経過をとるので第1選択である。経胆嚢管法のビデオを供覧する。

**【症例】**患者は60歳代女性。10年前に心窩部痛を契機に胆嚢結石を指摘され、漢方薬の内服など行っていたが、年に何回かの疼痛発作を自覚していた。

手術希望して前医受診したが、総胆管結石を指摘されて、内視鏡下乳頭切開切石と腹腔鏡下胆嚢摘出の二期的手術を提示された。家族の都合があり、一次的手術を希望したため、当院を紹介受診することになった。

MRIで総胆管結石。経静脈的胆道造影は胆嚢胆管ともに陽性、陰性結石。血液生化学検査で胆道系酵素の異常を認めず。

**【手術】**術中胆道造影にて胆管結石確認。0.035mmのガイドワイヤーを胆嚢管から総胆管まで挿入し、ガイドワイヤーを介して胆嚢管拡張用バルーン付きカテーテルを挿入。13気圧（バルーン直径6mm）で4分間拡張した後、カテーテルを抜去し、ガイドワイヤーを介して2.8mm径の胆道鏡を総胆管に挿入。胆管内を観察し、結石を確認して、バスケットカテーテルを用いて結石を摘出した。切石後、確認の胆道造影を施行し、完了確認後は通常胆嚢摘出術を施行した。手術時間138分(skin to skin)、出血量0g、結石は胆嚢・胆管ともに黒色石。胆汁培養は $\alpha$ -streptococcus、細胞診はclass III。術後経過は良好で術後3日に退院した。

**【成績】**当院の総胆管結石に対する経胆嚢管法による腹腔鏡下手術では胆管切石個数平均1個、最大結石径は平均5mm。平均観察期間22か月で遺残結石や再発、胆管狭窄はない。術後在院日数は平均2.4日。退院後平均1.2日で社会復帰していた。